はるかな尾瀬

—目　次—

02　特集　木漏れ日に憩う里、片品村
05　ビジターセンターへ、ようこそ！
06　現地情報
　①原をわたる風だより
　②おこじょだより
08　尾瀬ボランティア情報
09　TOPICS
10　尾瀬保護財団からのお知らせ

2015.8 vol.27
（公財）尾瀬保護財団

1

2

3

4

5

ふるさとの調べ

※撮影日：2015/5/26

（撮影場所は p.4 に記載）

特集

木漏れ日に憩う里、片品村

初夏の陽光が降りそそぐなか、私が訪れた群馬県利根郡片品村は、〈尾瀬〉〈武尊〉〈丸沼・白根〉の3つのエリアに分かれており、その谷沿いに集落が広がる山里だ。人口は、およそ4，800人。5月下旬、尾瀬のシーズンが始まり、それぞれの思いを胸に日々の暮らしを営む方々を取材した。

＊＊＊＊＊

人生で、いまが一番いい

尾瀬国立公園（群馬県側）の玄関口にあたる、片品村戸倉。この集落で生まれ育ち、75年の人生をずっとここで過ごしてきた人がいる。

「やることは全部やってきた。」

そう語るのは、松浦和男氏。ふもとと尾瀬を行き来して荷を運ぶ「馬方」の元締めの家に生を受け、16歳から家業を担ってきた。現在は、戸倉温泉「ロッジまつうら」を経営する。この地区の宿の多くは、もともと農家を改装して登山者を泊めるようになったのが始まりだという。和男さん自身は、30歳のときに父親が急逝して以来、経営者として宿を切り盛りしてきた。60歳まで片品村遭難救助隊の尾瀬班長を務め、地元の山岳ガイド協会会長として現在もお客様を案内している。

▲ 松浦和男氏（山遇楽にて）

▲ 昔が偲ばれる、戸倉分校跡

戸倉は最終集落で、お隣さんは尾瀬の向こう、福島県南会津郡檜枝岐村。和男さんは、小学校6年生まで戸倉分校に通った。分校はその佇まいを今に残しており、ふらりと立ち寄れば、在りし日を偲ばせる。1～3年生で一クラス、4～6年生で一クラス。厳格な女の先生だったのだとか。「先生に言うぞ！」の一言で、誰もが黙ってしまうほどで、親に言いつけられるより、余ほど怖かった。中学校に上がって、鎌田まで片道8～9㎞を2時間以上かけて通うようになり、冬は寄宿・共同生活をした。月曜日～金曜日まで寄宿、土曜日に家に帰ることの繰り返し。その頃は、尾瀬から材木を切り出して運ぶトラックが土煙をあげて往来しており、砂利道でスピードの落ちるところを見計らって、その荷台に飛び乗っては、歩く距離を短縮したのだとか。

「もちろん、運転手に悟られないようこっそりとね。」

と、和男さんはいたずらっぽく笑った。

中学校卒業後、他の同級生が集団就職していくなかで、和男さんは一人、戸倉に残った。仕事として馬方家業を請け負っていた頃は、とにかく時間に追われていた。戸倉から徒歩で、大清水から尾瀬沼へ。富士見峠を越えて尾瀬ヶ原へ。電話や無線という通信手段がなかった当時、悪天候による宿泊キャンセルの伝言も、山小屋まで、人が運ぶ必要があった。雷でも台風でも、行かねばならなかった。周辺の道路網、登山道が整備され、ヘリコプターによる荷の搬入が可能になると、馬方の時代は終わりを告げた。

▼ 馬方仲間と（写真提供：和男氏）

宿を経営するようになって、冬のスキー、夏の合宿の誘致に力を入れた。先輩と二人で東京まで営業に通い詰め、旅行業者はもちろんのこと、都内のほとんどの大学を回ったという。銀行に掛け合って体育館も建設。7月下旬～9月中旬（夏休み）の60日間で3，000人を集客するまでになった。嬉しい悲鳴で、旅行業が安定して回るようになったことを実感したそうだ。

▲畳を担ぐ和男氏（写真提供：和男氏）

▲ トラック（写真提供：和男氏）

いまの和男さんの生き甲斐を問うてみると、「地域の年寄りたちの世話役」という答えが笑顔とともに返ってきた。老人会の会長をしているが、会のなかでは若手。何かにつけて段取りをつけ、送迎バスを出すなど、なかなか多忙な毎日を送っている。地区の美化清掃活動で、草刈りやごみ拾いなど、行事は目白押し。

「いまは、自由。何でもできて良い。強制されないからね。」

手が空いた時間には、宿の裏手にある尾瀬の資料館「山遇楽」で、写真を整理したりする。建物の設計から材木の切り出し、建設、展示物の一つ一つに至るまで、全て自費でまかない、縁故の人々の力を借りて築いた。木の香りとぬ

くもりに包まれて、ほっこりできる空間だ。今の尾瀬を歩く前（歩いた後）に、ここで昔の尾瀬に思いを馳せてもらえたらいいな。そんな和男さんの思いが凝縮されている。

戸倉の四季では、春の芽吹きの頃が好き。若葉と一緒に、自分の気分も上向くからだという。

「人生で、いまが一番いい。」

多いときには年間２００日以上、戸倉と尾瀬を行き来して、その美しさも厳しさも、一身に受け止めてきた。穏やかな物腰の奥に激動の半生を秘めて、和男さんは、いま、この瞬間を楽しんでいる。

ビフォー尾瀬＆アフター尾瀬

片品村役場は、〈遥かなる花の谷のふるさと〉として観光と農業の施策を大きな柱に掲げる。片品村のいいところ、むら自慢は何かと尋ねると、「野菜と水」という答えが返ってきた。

「山と自然とスキーの村だから。」

と話すのは、むらづくり観光課の星野秀弘氏。村内には２００軒以上の宿泊施設があり、学生のスポーツ合宿や音楽合宿を積極的に受け入れて、体育館・公共施設を開放している。

夏、日中に30℃を超えても、夜には15℃程度まで下がる。この昼夜の気温差を活かして、花豆、トマト、とうもろこしの栽培に力を入れる。寒暖の差が大きいことで、甘みのある野菜が採れるのだという。そうして育てられた野菜は全国に出荷されるほか、村営の施設〈かたしなや〉〈花の駅・花咲の湯〉〈ほっこりの湯〉の三カ所でも直売される。片品の湯に浸かって心と身体を癒やし、朝採り野菜を手軽に買い求めることができるだろう。

同課の戸丸権次課長補佐の実家は大玉トマトの栽培農家でもあり、朝、収穫作業の手伝いを時々するそうだ。

「身がしっかりしているので日持ちもするし、甘みが多くてうまいよ。」

▼真っ赤なみずみずしいトマト（写真提供：片品村むらづくり観光課）

▲新鮮野菜や手作り小物が並ぶ村営直売所〈かたしなや〉

言葉にも自然と力がこもる。片品村内には専業のトマト農家が69軒あるそうで、片品の夏の気候・風土に合った高原野菜だ。ぜひご賞味あれ。

近年、全国の観光地で増加傾向にある外国人旅行者の割合はどうなのか。星野孝行係長に印象を聞いてみたところ、「まだ〈始まり〉かな」とのこと。今季から、津奈木ゲートに外国語で注意喚起チラシを設置した。

また、近隣の一大観光地である栃木県日光市に企画を持ち込み、「楽ドラ」というドライブガイドマップを作成。製作費は全て片品村が負担したという。群馬県内の富岡製糸場の世界遺産登録を受け、日光から富岡に行く途中に利根沼田地域に立ち寄ってもらうことを意図している。片品と日光の双方の観光施設にマップを設置していて、反響は良い。追加で設置したいという増刷の要請が届いているそうだ。

他の中山間地と同様に、片品村においても、ここ20年で人口減少が進み、若い世代の村外流出を防ぎたいところだ。そんななかで、光も見える。「冬はボード、夏はガイドと農業」という村外出身の若い世代が増えてきているのだという。極上のパウダースノーに魅せられてスノーボードを楽しむ若者たちが、それをきっかけに、片品村内に移住する例も少なくない。

地元で「激しい」という意味の方言「はげ」をキャッチフレーズに、夏は「はげ旨え」、冬は「はげ盛」という食のキャンペーンを開催し、ＰＲを図ってきた。評判も上々で、毎夏毎冬のイベントとして定着しつつある。

村内には９つの温泉地があり、源泉は10以上。観光客の、日帰り客と宿泊客の割合はどうなのだろうか。片品村がまとめた統計をみると、村内では宿泊が約23％。魅力満載の片品で、ビフォー尾瀬＆アフター尾瀬をゆっくり過ごしてもらいたい。そんな村の願いがこだまする。

オンリーワンを目指して

「うちが目指すのは、着地型の観光。片品に来て、集合して、遊んでもらうこと。」

片品村振興公社株式会社尾瀬ツーリストの星野佳幸氏は、そう口火を切った。現在、旅行業の第３種（村内および隣接

▲収穫体験の様子（写真提供：片品村振興公社）

市町村の沼田市やみなかみ町などで事業可能）登録事業者だが、第2種にステップUPしたいと考えている。国内全域に範囲が広がることで、羽田空港や東京駅集合のツアー企画・実施が可能になるからだ。企画・立案にあたっては、何よりも〈片品らしさ〉を大事にしている。

「できるだけ多くの人（村民）に登場してもらいたい。」

という言葉どおり、公社では、お客様と村民の交流を大切にする。一過性のツアーで完結するのではなく、その後も関係が続くように。

「例えば、収穫体験ツアーに参加したお客様が、その後、その農家の野菜を買う。自分たちは、その「足がかり」を作っている。例えば、子どもたちの体験学習があって、次は家族で（片品に）来てもらう。点が線になって、大きいものになる。」

佳幸さんのまっすぐな思いが伝わってきた。村内に拠点を置く地元旅行業者として、ナンバーワンは無理でも、オンリーワンを目指したい。自然、食、体験。ここでしかできないことを、安全に、楽しく提供しようと奮闘中。

大手旅行会社が企画する「日帰りの尾瀬」は、安さと手軽さが売りの商品だが、片品村（ふもと）自体にメリットがない。

「安いだけじゃない。金額が多少、2～3千円高くても、片品の地元業者だからこそできること、内容があると思っている。」

昨秋、当財団は公社主催の「スタディツアー」に協力をさせていただいた。ツアーは、片品村戸倉に宿泊し、戸倉をめぐり歩いて歴史を掘り下げて学ぶというものだった。地元食材をふんだんに使った食事でもてなし、優しい味の花豆アイスを差し入れて、お土産には甘くて新鮮なりんごをプレゼントするというサプライズもあって、きめ細やかな対応が光ってみえた。いつもお客様の立場で、嬉しいと思うことを考えているそうだ。予算の制約があるなかでも、許される範囲において如何に質の高い商品をつくるか、企画を磨くことに余念が無い。

▲お客様の安全に気を配る佳幸氏
（スタディーツアーにて）

お客様のターゲット層については、特にファミリー層を挙げる。家族みんなでめいっぱい遊んで、その土地のものを食べるのも「思い出」。子どもに好い経験をさせたいと思う親心とその心理を、よくついている。旅先から日常に戻って、お父さんは会社で、お母さんはママ友に、子どもは学校で、それぞれ土産話をする。そこから情報が拡散し、波及効果も大きいだろう。

これからの課題は、地元の農作物をいかに活用できるかだという。「観光＋農業」という、いわゆるグリーンツーリズム（旅行のなかで農業体験）の可能性を模索中だ。昨今求められているのは、体験型。それも、普段の生活とは少し違う〈非日常〉を体験するものだと考える。地域の行事（夏祭り、盆踊りなど）と絡めたプランも検討したい、と意気込む佳幸さんの目は、明日を見つめていた。

＊＊＊＊＊

爽やかに吹きわたる風、こんこんと湧き出る水。ふらりと歩くだけでも、それらは肌に耳に心地よく、身のうちまで洗われるようだ。農家の方々が丹精込めて育てる野菜は、山の滋味そのもの。

民宿、行政、旅行業と、扱う媒体や方法は違えども、そのまなざしは、皆、同じ。それぞれの心を映して、守り継がれた村の営みは、この先に続いていく。その隣に、尾瀬がある。

足を止めて空を見上げれば、繁る青葉に光が透けて、きらきら輝く。足もとには、優しい影が揺れている。木漏れ日に憩う里で、ふるさとの調べが聞こえた。

（峯岸　梢）

（追補）

今回の取材について、快くご協力をいただいた松浦和男氏、片品村役場むらづくり観光課の戸丸権次課長補佐・星野孝行係長・星野秀弘氏、片品村振興公社尾瀬ツーリストの星野昌也支配人・星野佳幸氏に対して、この場を借りて御礼申し上げます。

また、村の物産店かたしなやでは、あたたかいおもてなしを受けました。おいしいお蕎麦とスイーツで、取材の合間の休憩時間にホッとできました。手づくりの小物もかわいくて、お土産に手に取りたくなるものばかり。スタッフの皆様に深く感謝申し上げます。

【表紙の写真について】

①新鮮野菜（写真提供：片品村むらづくり観光課）②十二山神社
③戸倉関所跡（記念碑）④湧水　⑤戸倉～大清水間のカラマツ林

ビジターセンターへ、ようこそ！

尾瀬山の鼻ビジターセンター

尾瀬山の鼻ビジターセンターは、平成5年に群馬県によって設置され、尾瀬ヶ原の入口（西端）に位置しています。ビジターセンターのある山ノ鼻地区からは、花の百名山の一つに数えられる至仏山を間近に望むことができます。

写真②

建物正面の扉から入ると、動物たちがお出迎えしてくれます。直接手で触って感触を感じてみてください。記念撮影もOKです。（写真①）

最新の尾瀬情報を更新しています。立体地図模型をみながら行程を確認してみてください。（写真②）

写真③

パソコンを使って植物や動物を調べることができます。鳥の鳴き声も検索してみてください。（写真③）

色々なコンテンツを展示していますので是非立ち寄って見てみてください。（写真④）皆さんの尾瀬ライフが広がると思います。

写真①

土日祭日の前夜は、レクチャールームにてスライドショーを実施しています。尾瀬の自然保護やクマのお話など、他では聞けないような話をお楽しみいただけると思います。

写真④

尾瀬沼ビジターセンター

尾瀬沼ビジターセンターは、昭和59年に環境省によって設置され、尾瀬沼東岸の会津沼田街道沿いに位置しています。ビジターセンターのある尾瀬沼地区からは、日本百名山の一つである燧ヶ岳を間近に望むことができます。またカウンターには職員が常駐し、尾瀬の自然についての情報提供を行っています。

この他にも尾瀬沼ビジターセンターでは、利用者の皆様が尾瀬のことをより深く知ることができるようシーズンを通して様々なイベントや企画展示を実施しています。毎朝9時30分より、手軽に自然と触れ合うことができる「尾瀬を感じるミニツアー」、土日祝日の前夜には宿泊者を対象とした夜のイベントなども実施しています。

写真①

また、現在は2本の企画展示を行っております。その1つめは「Ethnic Plants of Oze - 多民族な植物たち」（10月31日まで）で、尾瀬に生育する植物には様々なルーツがあることを〈多民族〉と表現しながら紹介しています。（写真①）

2つめは「昔の尾瀬写真展」（10月19日まで）で、40～60年ほど前の風景や木道、登山者の姿、山小屋の営みの様子を紹介しています。（写真②）

写真②

今後も様々な企画展示を開催していきますので、尾瀬にお越しの際には、ぜひ尾瀬沼ビジターセンターにお立ち寄りください。

さらに、尾瀬にお越しの際の情報収集には、尾瀬保護財団HPや尾瀬沼ビジターセンターのFacebookページをご覧ください。現地より最新情報をお届けしております。皆様と尾瀬沼でお会いできることを楽しみにお待ちしております。

現地情報

原をわたる風だより

～山の鼻ビジターセンターより～

開所式がとり行われました

5月15日に山の鼻ビジターセンターでは開所式を迎え、尾瀬国立公園が本格的にシーズンを迎えました。

お天気にも恵まれ、開所式では尾瀬ヶ原にある山小屋のご主人や、ビジターセンターの職員、尾瀬保護財団の職員、この日居合わせた利用者の方など、たくさんの方に参加していただきました。

尾瀬ロッヂのご主人のご発声によるノンアルコールの甘酒での乾杯から、毎年ご協力いただいている尾瀬ボランティアさんによるハーモニカ演奏などのイベントも、和やかな雰囲気で進んでいき、尾瀬ヶ原地区の交流を深める一日となりました。

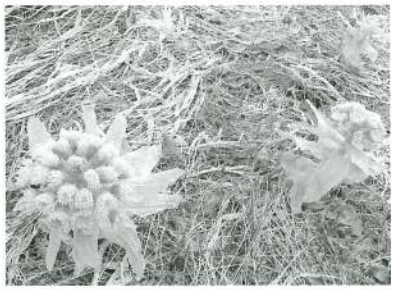
（西澤　政春）

視野を変えて尾瀬を見る年

今年からビジターセンタースタッフになりました、菅原與晴です。

私自身、尾瀬には燧ヶ岳や至仏山を登るために毎年足を運んでいましたが、今年初めて山の鼻ビジターセンターの職員として働くことになり、業務内容や山での集団生活など未経験の事ばかりで右も左も分からぬ中、開所式に来られた多くの方々に温かい声をかけて頂き、尾瀬に関わる人の輪の中で頑張っていこうと決意を新たにしました。

開所式を終え、翌16日から山の鼻ビジターセンターの通常業務が始まり、所長はじめ諸先輩方や、尾瀬に関わる様々な方の指導や声援を受けながら1つ1つ仕事を覚えていっています。



そうした仕事の合間に、尾瀬ヶ原に足を伸ばせば、尾瀬ヶ原を覆っていた雪が徐々に消えていき、雪解け水の中や木道の隙間から芽吹くミズバショウやリュウキンカ、イワツバメやハクセキレイの囀り、川や湿原を流れる水の音色、その中を泳ぐカエルの様子、この時期にしか見られない自然現象であるアカシボなどを目の当たりにし、尾瀬の自然の素晴らしさを感じると共に、いままで山ばかりを見上げ足元を見てこなかった自身の視野の狭さを実感するところでもあります。

また、遠方の家族に近情を話すと「まるで別世界のよう」と、このような所からも尾瀬と他の地域の環境の違いを感じたりもしました。

他方、尾瀬ヶ原を歩く中で、過度に軽装の方や町歩きと変わらない格好をした方を見かけることがあります。そうした姿を見る度に、そんな装備で大丈夫なのかなと不安を覚えます。

この時期に限らず、尾瀬は山ですので、天候の急な変化等が起こる可能性は常にあります。尾瀬に来る方々に事故など無く気持ち良く帰って頂き、また尾瀬に来たいなと思ってもらうためにも、ビジターセンターの仕事の1つである登山マナーの啓発などの重要性を感じる次第です。

多くの人々と尾瀬の自然環境の中で日々が過ぎていくことに感謝しつつ、この素晴らしい尾瀬を守り、また来る方々の大切な思い出になる助けとなれるよう、毎日精進していきたいと考えています。

皆さまもどうか素晴らしい尾瀬を未来に繋げ、また尾瀬に訪れて良き思い出が出来るようにするためにも、登山マナーはもちろん、思いやりや自然環境への愛着を持って、尾瀬にお出かけになってください。

御協力を、よろしくお願いします。

（菅原　與晴）

現地駐在職員紹介

▲西澤（にしざわ）　政春（まさはる）
（山の鼻ビジターセンター所長）

▲渡辺（わたなべ）　早紀（さき）

▲髙堀（たかほり）　かな

▲森山（もりやま）　暢希（まさき）

▲森田（もりた）　真木（まき）

▲中村（なかむら）　俊一（しゅんいち）

▲菅原（すがわら）　與晴（ともはる）

現地情報

おこじょだより

～尾瀬沼ビジターセンターより～

それぞれの思い

こんにちは、昨年は山の鼻ビジターセンターで多くの方にお世話になりました。今年はここ尾瀬沼ビジターセンターにお世話になっています。ビジターセンターは、窓から雄大な燧ケ岳が間近に見えて、鳥のさえずりも聞こえてきて、とても贅沢な環境にあります。

生活面ではスタッフのみんなとの共同生活になっているので、生活ルールを決めて、仲良く生活しています。

尾瀬のシーズンは約半年という短い期間でありますが、皆さんに良かったと言われるようなビジターセンターにしていきたいと考えています。皆さんのご指導をいただきたく、尾瀬沼にお越しの際は気軽に立ち寄っていただければ幸いです。

（阪路　善彦）

昨年は群馬県尾瀬山の鼻ビジターセンターでの勤務でしたが、今年は環境省尾瀬沼ビジターセンターでの勤務となりました。尾瀬を代表する尾瀬ヶ原と尾瀬沼、数㎞ほどしか離れていないにも関わらず環境の違いを肌で感じています。尾瀬ヶ原では湿原の雪が解け、ミズバショウやリュウキンカなど春のお花があちこちで咲き始めている頃も、尾瀬沼ではまだまだこれからといった感じで、林内は残雪があり、滑らないように注意が必要でした。こうした環境の違いが、尾瀬の自然環境をより素晴らしくしているのだとも感じています。ビジターセンター職員として、尾瀬の魅力はもちろんですが、今年は尾瀬沼の魅力をお伝えすることに力を入れていきたいと思います。ぜひ、尾瀬にお越しの際には尾瀬沼ビジターセンターにお立ち寄りください。皆様のお越しをお待ちしております。

（宇野　翔太郎）

今年もお世話になります。尾瀬沼ビジターセンター勤務になった川上藍です。登山道に一歩足を踏み入れた瞬間、どこからか「おかえり」という声を聞いたような気がしました。

自分にとっての故郷のように懐かしくうれしい気持ちで一杯になります。今年で勤務が3年目となりますので尾瀬ヶ原や尾瀬沼はもちろん、尾瀬中を縦横無尽に駆け巡り、新たな発見と新たな目標を達成することを目指し精進してゆきたいと思います。よろしくお願いいたします。

（川上　藍）

こんにちは。今回尾瀬沼ビジター勤務になりました石塚です。尾瀬に来てから少し経ちましたが、何もかもが初めてで知らないことばかりです。今回は縁があって「ここ」に居ます。ちょっと前には考えてもいなかったことで、本当に先のことはわからないなあと感じつつ、この縁を大切にしたいと強く思います。毎日確実に変わってゆく風景に取り残されないように自分自身レベルアップしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

（石塚　舞雪）

私は、昨年定年退職になりました。山が好きで、会津の有名な山はたいてい登りました。

もちろん、燧ケ岳、至仏山、会津駒ケ岳、平ケ岳、帝釈山、田代山という尾瀬周辺の山にも挑戦しております。このように山と自然が大好きな私が定年後は尾瀬沼ビジターセンターで働くことができるようになり、大変喜んでおります。尾瀬は、尾瀬ヶ原を含めると広大な地域ではありますが、休日等も利用して、できるだけ全部を歩き、お客様に「最新の」そして「確実な」情報をお伝えすることに努めます。

（栗城　昭義）

今年から尾瀬沼ビジターセンターで働かせていただくことになりました平林丈嗣です。雪が溶け、日毎に春らしさを増していく尾瀬に毎日感動しています。初夏はミズバショウやワタスゲ、夏はニッコウキスゲをはじめとした色とりどりの花々、秋は紅葉と様々な表情をみせてくれる尾瀬の魅力をお客様に見て、感じて、知っていただけるお手伝いができるよう明るく楽しく頑張りたいと思います。個人的にはモウセンゴケを楽しみにしています。皆様にモウセンゴケの魅力を知っていただけるように工夫を凝らした解説もしたいと思っています。よろしくお願い致します。

（平林　丈嗣）

標高1，660Mの雪の世界にある尾瀬沼ビジターセンターでの開館準備と尾瀬沼の雪解けは日毎に進んでいき、2週間程が経ちました。

スタッフは展示などに追われながらも尾瀬沼の向こう側に聳える名峰燧ケ岳が見守る中で共同生活をしながらどうにか開館へと辿り着いたようです。

そして尾瀬沼の水面に浮かぶ燧ケ岳を眺めていた僕は早々とその山に登る機会に恵まれることになりました。休日を使い長英新道経由で燧ケ岳の俎嵓（2，346m）へ。好天に恵まれ、尾瀬ヶ原や至仏山、その他の山々の稜線は広がり僕の下方にある尾瀬沼が巨大なオットセイの姿に見えました。

こうして尾瀬国立公園をフィールドに生活が始まりました。つたない面が多いながらも大切な時間を過ごそうと思っています。

（穂坂　義人）

現地駐在職員紹介

▲石塚（いしづか）　舞雪（まゆ）

▲川上（かわかみ）　藍（あい）

▲宇野（うの）　翔太郎（しょうたろう）

▲阪路（さかじ）　善彦（よしひこ）
（尾瀬沼ビジターセンター責任者）

▲穂坂（ほさか）　義人（よしと）

▲平林（ひらばやし）　丈嗣（たけし）

▲栗城（くりき）　昭義（あきよし）

尾瀬ボランティア情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登録されている方のためのページです。

●「尾瀬ボランティア講座」を実施しました

7月4日(土)～5日(日)に尾瀬沼地区にて「尾瀬ボランティア講座」を実施し、8名の新人ボランティアが誕生しました。今回は群馬県・福島県の双方向から入山（参加）可能なよう計画しました。

実地研修（清掃活動および入山口啓発活動）は現役ボランティアにご協力をいただき、活動の楽しさや苦労など具体的な話が聞かれました。新人の皆さんからも、尾瀬ヶ原・尾瀬沼、拡張地域（田代・帝釈山など）に対するそれぞれの思い入れが語られました。大好きな尾瀬を守りたいという気持ちは、共通のもの。まもなく設立20年を迎える尾瀬ボランティアですが、総勢297名となった皆さんの思いが入山者に届き、尾瀬を守る心を育みます。そして、皆さん自身が楽しく活動を続けていくために、互いの交流が深まる（一緒に活動する）機会を設定したいと考えています。

平成27年シーズンも残り3ヵ月となりましたが、よろしくお願いいたします。

▼尾瀬沼畔で尾瀬のなりたちについて学ぶ受講生

▲はじめに自己紹介タイム

▲熱心にゴミ拾い

●「ありがとう尾瀬清掃活動」を実施します

折々に美しい表情をみせてくれる尾瀬。「今シーズンもありがとう、来シーズンもよろしく」という気持ちを込めて、左記のとおり清掃活動を実施します。

記

一　実施日および実施コース

平成27年10月18日(日)

◎尾瀬ヶ原コース

（山ノ鼻ビジターセンター集合・解散）

（JA高崎ハム社員と共同で実施予定）

◎尾瀬沼コース

（尾瀬沼ビジターセンター集合・解散）

※いずれのコースもコーディネーターとして財団職員が一緒に活動しますが、参加人数の多少によって班分けを行うため、ボランティアの皆さんに連絡係（各班のまとめ役）をお願いする場合があります。ご協力ください。

二　当日の携行品

尾瀬ボランティア証、昼食、火ばさみ、ゴミ袋、軍手、雨具、帽子、スパッツ、防寒具等

三　荒天時の対応

当日は雨天決行（大雨の場合は現地判断）ですが、台風等で悪天候が確実な場合は、10月16日(木)までに電話等で参加申込者あて中止連絡をします。

四　その他

詳細は後日、申込者あて別途通知します。

▲平成26年の活動の様子

トピックス　TOPICS

○尾瀬の入山口（大清水）で低公害車両の営業運行を実施中（群馬県からのお知らせ）

特定の入山口への利用集中の緩和や、国立公園の回遊型・滞在型利用を促進するため、大清水口において、大清水～一ノ瀬間に公共交通として低公害車の導入が検討され、数年にわたる関係者の協議や社会実験、試験運行を経て、平成27年度シーズンから本格的に民間事業者による営業運行が始まりました。事業の概要は左記のとおりです。

記

一　期間

平成27年6月20日(土)～10月18日(日)(予定)

（路面整備や安全確保の状況により変更になる場合があります。）

二　場所

大清水口

三　内容

①区間：大清水～一ノ瀬（約3㎞）

②時間：大清水5時発(※)～一ノ瀬16時30分発(※)

※注意：10月13日以降は

大清水7時30分（始発）～一ノ瀬15時30分（終発）

（事業者にご確認ください。）

③車両：低公害車両　4台

（13人乗り、9人乗り、4人乗り）

④所要時間：片道 約15分程度

⑤運賃：大人700円、こども350円

⑥頻度：定時運行

⑦運行事業者：関越交通(株)、尾瀬観光タクシー

（有）、（株）老神観光バス、片品観光タクシー（有）

※歩行者優先で、速度を抑えて運行しています。

※混雑状況により、ご乗車できない場合もあります。

※低公害車両の運行に併せて、群馬県が旧道（会津沼田街道）を整備し開放しています。

【運行に関する問い合わせ先】

●関越交通（株）鎌田営業所 ☎:0278-58-3311

●尾瀬観光タクシー（有） ☎:0278-58-3152

●（株）老神観光バス ☎:0278-56-3222

●片品観光タクシー（有） ☎:0278-58-2041

○尾瀬自然解説ガイドの参加者募集中

尾瀬保護財団では、山の鼻ビジターセンターおよび尾瀬沼ビジターセンターを基点として所定のコースをご案内する「尾瀬自然解説ガイド」を実施しています。

この秋は、左記のとおり尾瀬沼地区にて催行を決定。現在、参加者募集中です！

担当ガイドは、自然解説や安全管理の知識・経験はもとより、尾瀬ボランティアとして、長年にわたり貴重な自然を守るために地道な活動を続けています。尾瀬を初めて訪れる方に安心して参加をいただけるよう、また、何度も尾瀬に足を運んでいる方にも新しい発見をしていただけるようコースや時間設定をしています。安全に楽しく歩きながら、尾瀬について理解を深めていただければ幸いです。

秋の尾瀬沼に、出掛けてみませんか？

記

一 実施日、参加者定員およびガイド人数

	実施日	参加者定員	ガイド人数
①	9月5日(土)	終了しました	
②	9月6日(日)	終了しました	
③	9月7日(月)	終了しました	
④	9月17日(木)	20名	2名
⑤	10月7日(水)	20名	2名
⑥	10月9日(金)	30名	3名

（全て平成27年シーズン予定）

二 開始時刻

9時～または9時30分～

※原則として、各日各回とも最少催行人数は2名以上、定員は1ガイドにつき10名以内とします。

※各日ともに、いずれかの回が定員に達した場合は実施できない回が生じる可能性があります。また、人数調整のために時間の変更をお願いする場合があります。

三 集合場所

尾瀬沼ビジターセンター前

四 設定コース

尾瀬沼ビジターセンター～沼尻（北岸コース）

※往復（所要時間：約3時間）

五 ガイド料金

一人あたり1200円

※保護者同伴の小学生以下は無料となります。

※ガイド料金には保険料が含まれます。

六 申込方法

専用申込書に必要事項を記入の上、担当あて郵送、FAXまたはメールにてお申込ください。

▲平成26年シーズンのガイドの様子
ヌタ場を前に、尾瀬におけるニホンジカの被害について語るガイドと、その説明に聞き入る参加者たち

【参考】

◎尾瀬自然解説ガイドのご案内（財団HP）
https://www.oze-fnd.or.jp/archives/66017/
https://www.oze-fnd.or.jp/ozb/b-gs/

【問い合わせ先】

●尾瀬保護財団（担当：峯岸）
TEL:027-220-4431
FAX:027-220-4421
Mail:guide@oze-fnd.or.jp

○財団設立20周年記念事業を開催します

尾瀬保護財団では設立20周年を記念して、平成27年12月19日(土)に日本消防会館ニッショーホール（東京・虎ノ門）にて式典を開催します。参加のお申込方法などは後日、ホームページ等でお知らせします。

【問い合わせ先】

●尾瀬保護財団（担当：菊地）
TEL:027-220-4431
FAX:027-220-4421
Mail:oze20@oze-fnd.or.jp

寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行ない、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

■個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。（財団への寄付を行った翌年1月1日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。）

福島県、群馬県にお住まいの寄付者：個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

■また、尾瀬保護財団は「特定公益増進法人」に指定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りしております。

■企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度があります。詳細は財団事務局（群馬県庁17階・027-220-4431）にお問い合わせください。

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁17階・027-220-4431）にご来訪いただくか、財団に御連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095	新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	福島銀行本店営業部	普通	0590088		北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大東銀行福島支店	普通	1287138		大光銀行新潟支店	普通	0837334
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428				
	東和銀行本店営業部	普通	0975531				

特別協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

福島銀行

2015年4月27日寄付

株式会社福島銀行　平成24年11月に発売された「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」の平成27年3月末現在残高の0.01%に相当する、1,024万円余のご寄付をいただきました。（通算寄付総額　26,784,598円）

寄付者からのメッセージ：福島銀行は、中期経営計画「ふくぎん本気（マジ）宣言」の基本方針の中で、社会貢献の取組強化を掲げております。「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」では、お預け入れ頂いた同預金の年度末残高の0.01%相当額を尾瀬保護財団へ寄付させて頂いており、趣旨にご賛同頂いた多数のお客様より永年ご支持を頂いております。かけがえのない尾瀬の自然を守るため、福島銀行はお客様と共に、これからも積極的に保護活動に取組んで参ります。

明日をもっとおいしく meiji

2015年3月31日寄付

株式会社 明治　㈱明治様の群馬工場で使用される水の水源でもある、尾瀬の自然環境を後世まで守り、次代に繋げていくことで、社会そして子どもたちの未来に役立てていただきたいとの想いで、30万円のご寄付をいただきました。今回を含めて今後3年間に渡りご寄付をいただくこととなっています。（通算寄付総額　450,000円）

寄付者からのメッセージ：㈱明治は、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。その一環として、尾瀬の貴重な自然環境が守られるための保全活動の一助になる事を期待し、寄付させていただきました。今回の寄付金が有効に活用され、尾瀬の美しい自然環境が未来へ引き継がれていく事を願い、支援を継続してまいります。

公益財団法人 KOMERI コメリ緑育成財団

2015年2月6日寄付

公益財団法人コメリ緑育成財団　コメリ緑育成財団様より50万円のご寄付をいただきました。コメリ緑育成財団様からのご寄付は、前身のコメリ緑資金の会様からのご寄付と合わせて、今回で6回目のご寄付になります。来年度もご寄付をいただくこととなっています。（通算寄付総額　3,000,000円）

寄付者からのメッセージ：当財団は、㈱コメリの利益の1%還元事業として1990年に設立した「コメリ緑資金」による緑豊かなふるさとづくりへの助成事業を引き継ぎ、2012年に公益財団として新たにスタートしました。私たちの住むふるさとが花や緑にあふれ平和で豊かであってほしいと願い、豊かな自然環境づくりや園芸農業分野における技術開発などへの助成を行っています。未来の子どもたちのために、尾瀬の美しい自然と豊かな生態系がいつまでも引き継がれていくことを願っています。

Asahi アサヒビール株式会社

2015年1月30日寄付

アサヒビール株式会社群馬支社　47都道府県において、アサヒスーパードライ、スーパードライ　ドライプレミアムの缶、ビン及びスーパードライ ドライブラックの缶1本あたり1円を各都道府県の売上に応じて、環境関連等の団体に寄付するもので、平成26年秋の第8弾キャンペーンにより236万円余のご寄付をいただきました。（通算寄付総額　27,957,751円）

寄付者からのメッセージ：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や地域貢献を目標に掲げ、2009年春より、アサヒスーパードライ「うまい！を明日へ！プロジェクト“尾瀬の環境保全活動”」をスタート。売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただいています。より多くの県民の皆様に主旨を知っていただき、また、賛同いただくことで、県民の皆様とともに群馬県の環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役立ていただけたら幸いです。

SAVE ON

2014年11月20日寄付

株式会社セーブオン　平成26年5月13日～6月23日および9月1日～30日の間、群馬、新潟、福島県内のセーブオン全店舗において、尾瀬環境保全募金を実施していただき、その募金額をご寄付いただきました。（通算寄付総額　1,224,535円）

寄付者からのメッセージ：㈱セーブオンでは、「尾瀬国立公園」が位置する群馬県・新潟県・福島県の店頭にて募金を実施し、多くのお客様に寄付をお寄せいただきました。ご協力頂いたすべてのお客様に深く感謝いたします。今後も、尾瀬の貴重な自然環境を後世まで末永く守り続けるための活動を応援してまいります。

尾瀬紀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として総額525万円余りをご寄付いただきます。
平成19年より今回が９回目のご寄付となります。（通算寄付総額　55,840,647円）

ＤＩＡＭアセットマネジメント株式会社　今年度は262万円余りをご寄付いただきます。
（通算寄付総額27,920,324円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。
2015年６月４日寄付

株式会社東邦銀行　今年度は82万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額　9,802,859円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にＣＳＲ（企業の社会的責任）を重視して取組んで参ります。
2015年６月４日寄付

株式会社群馬銀行　今年度は132万円余りをご寄付いただきました。　（財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額　28,701,952円）
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。
2015年６月３日寄付

株式会社第四銀行　今年度は41万円余りをご寄付いただきます。（通算寄付総額　5,893,897円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。
2014年９月12日寄付

新潟証券株式会社　今年度は６万円余りをご寄付いただきます。（通算寄付総額　1,673,975円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。新潟証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。
2014年９月12日寄付

協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

水上高原リゾート株式会社 2015年９月８日寄付	水上より坤六峠を越えて尾瀬に入るツアーを同社が経営されているホテル（水上高原ホテル200）で実施されており、その収益の一部として30万円のご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で３回目となります。（通算寄付総額　1,140,000円）
株式会社ニチネン 2015年７月17日寄付	株式会社ニチネン様が片品村の尾瀬工場（平成19年４月に設立）で生産し、販売するミネラルウォーター「尾瀬の湧き水」の収益の一部を、尾瀬の自然環境保全のために役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成19年度から毎年ご寄付をいただき、今回で９回目となります。
株式会社読売旅行 2015年６月15日寄付	当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、10万円のご寄付をいただきました。昨年度から３年間に渡りご寄付をいただくこととなっています。（通算寄付総額　200,000円）
一般財団法人 群馬県警察厚生会 2015年６月11日寄付	当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の美しい自然が後世の人々に引き継がれるよう活動に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成23年度から毎年ご寄付をいただき、今回で５回目となります。（通算寄付総額　500,000円）
共和工業株式会社 2015年４月28日寄付	当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の保全に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で７回目となります。（通算寄付総額　1,300,000円）
株式会社とりせん 2015年２月25日寄付	当財団の自然保護活動に活用していただきたいとのことで、10万円のご寄付をいただきました。株式会社とりせん様からは、平成21年に株式会社とりせん創立60周年を記念して、環境関係に寄付するということで社員の皆様から募金をしていただき、ご寄付をいただきました。同社からのご寄付は今回が３回目で、昨年度から３年間にわたり継続してご寄付をいただくこととなっております。（通算寄付総額　1,258,391円）
株式会社フレッセイ 2014年９月30日寄付	フレッセイとキリンビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンビバレッジの対象商品の売り上げ１本につき0.5円（両社で0.25円ずつ負担）をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、31万円余りをご寄付いただきました。エコ基金からの寄付は、今回で５回目となります。（通算寄付総額　1,952,683円）
キリンビバレッジ株式会社 2014年９月30日寄付	フレッセイとキリンビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンビバレッジの対象商品の売り上げ１本につき0.5円（両社で0.25円ずつ負担）をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、31万円余りをご寄付いただきました。エコ基金からの寄付は、今回で５回目となります。（通算寄付総額　1,745,946円）
群馬トヨタ自動車株式会社 2014年８月４日寄付	平成25年４月から平成26年３月までの間、群馬トヨタ自動車株式会社様にて自動車保険への加入者が、「レンタカー費用補償特約」を付帯することで、１契約につき50円が群馬県の自然保護活動への支援に充てられることとなっており、当財団へ寄付をいただきました。今回で３回目となります。（通算寄付総額　447,850円）
株式会社コシダカホールディングス 2014年３月31日寄付	当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、30万円のご寄付をいただきました。（通算寄付総額　300,000円）
エース株式会社 2014年２月５日寄付	エース株式会社様の尾瀬関連商品の売上の一部（10万円）をＣＳＲの一環として当財団にご寄付いただきました。同社からのご寄付は今回が４回目で、今回を含めて今後新たに３年間に渡りご寄付をいただくこととなっています。（通算寄付総額　1,000,000円）

その他の寄付者のご紹介

※順不同、敬称略

巻島秀男、櫻井武・理恵子、戸所英俊、割田甚一、鈴木輝夫、村山盛繁、藤生宗平、殿塚武男、関越交通株式会社、芦野真由美、公孫会北魚支部、酒井一夫、齋須将、遠藤孝男、長田正文、大野領一、株式会社いせやコーポレーション、板橋勇人、日産自動車株式会社、尾瀬山小屋組合、尾瀬をいとしむ会、株式会社ベイシア、小花光雄、大内荘久、関本昇、株式会社サンワ、佐藤満、群馬県電力関連産業労働組合総連合、群馬県ビルメンテナンス協同組合

はるかな尾瀬
公益財団法人尾瀬保護財団機関誌
2015.8　平成27年8月31日発行
発行所：公益財団法人尾瀬保護財団
〒371-8570　群馬県前橋市大手町1-1-1
TEL　027-220-4431／FAX　027-220-4421
ホームページ　https://www.oze-fnd.or.jp

尾瀬のミニ観察㉓

レンゲツツジ（6-7月）

初夏、レンゲツツジの赤い花が咲く。漏斗形の花冠は半ばから5枚に分かれ、正面を向いた裂片にはチョウの好む濃赤色の斑点がある。

だがチョウを誘っても、その体を覆う鱗粉には花粉が付きにくい。花はそれを克服するため、花粉をネックレースのように細い糸で綴っている（写真白枠内）。花粉の一部でもチョウに付着したら、他の花粉も一緒に運ばせてしまおうという戦略なのだ。どのようなチョウが来るのか、作業の合間にでもちょっと観察しよう。

（フラワーエコロジスト　田中　肇）

イベント情報 ◆◆◆

第19回NHK「わたしの尾瀬」写真展

【中之口展】

●開催期間　平成27年9月19日(土)～10月1日(木)
午前9時～午後4時30分
※休館日：24日(木)・28日(月)

●会場　中之口先人館ギャラリー
(新潟県新潟市西蒲市中之口363)
(TEL：025-375-1112)

【佐渡展】

●開催期間　平成27年10月8日(木)～14日(水)
午前9時～午後5時
※休館日：13日(火)

●会場　アミューズメント佐渡 展示ロビー
(新潟県佐渡市中原234-1)
(TEL：0259-52-2001)

※予定は変更になる場合があります

『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。

※加入・更新時期が年4回（5月・8月・11月・2月）になりました

2月1日からの加入・更新をご希望の方は12月31日までに会費の納入をお願いします。

【年会費】

個人	個人会員	1口　2,000円
	家族会員（個人会員と同居の家族）	1口　1,500円
	ユース会員（3/31現在、満22歳以下）	1口　1,500円
賛助	賛助会員（団体・企業等）	1口 10,000円
	特別賛助会員（団体・企業等）	1口 100,000円

【特典について】

※友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただいております。

- **友の会会員バッチ進呈、各種資料送付**（初回加入時のみ）
- **財団機関誌**：配付（平成27年度は3回発行予定）
- **宿泊割引**：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引
（休日、祝祭日前等の除外日があります。）
- **尾瀬周辺施設利用料割引**：対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。
https://www.oze-fnd.or.jp

※特別賛助会員枠を新設しました

編集後記

平成27年の尾瀬シーズンも3ヵ月が経過して、草紅葉（くさもみじ）が楽しめるようになってまいりました。みどりの湿原が深みを増し、こがね色からあかがね色に輝きます。一面が深く落ち着いたさび色へと移ろうころに、周囲の木々もあやにしきをまとうことでしょう。半年間で春夏秋の三季がめぐる、尾瀬。皆さまは、どんな風景に出会えましたか？美しさと厳しさをあわせ持ち、刻一刻と表情を変えて、尾瀬は今日も訪れる者の目を楽しませてくれます。

時節柄、朝夕を中心に冷え込むことが予想されます。防寒対策を十分になさってお出掛けください。（峯岸）

oze mobile 携帯サイト　緊急情報　お知らせ　ライブ映像など　情報配信中
ツイッター　尾瀬の質問も受け付けています　尾瀬情報配信中

本誌は、再生紙と環境にやさしい再生植物油インキを使用しています。